

今月の PICK UP



「源氏物語 A・ウェイリー版」1~4 紫式部/著

毬矢まりえ・森山恵/訳 左右社 913.3ム

千年の時を越えて読み継がれてきた源氏物語は、様々な人の手で現代語に訳されてきました。与謝野晶子、谷崎潤一郎、円地文子、田辺聖子、新しいところでは角田光代版もあります。その中でもひときわ異彩を放つ源氏をご紹介しましょう。本書は、イギリスの作家アーサー・ウェイリーが20世紀はじめに英語に訳した源氏物語を、詩人・俳人の姉妹が日本語に訳しなおしたもので、当時の英國読者がイメージしやすいよう、極東の王朝絵巻のあれこれがヴィクトリア朝の文物に置き換えられています。100年前のヨーロッパ文化を潜り抜け、現代日本に戻ってきた源氏物語の世界をどうぞお楽しみください。

「世界チャンピオンの紙飛行機ブック」 John M.Collins/著

久保田 晃弘/監訳 金井 哲夫/訳 オライリー・ジャパン 754.9コ



2012年に紙飛行機の飛距離ギネス世界記録、69.14mを樹立した著者が、さまざまな紙飛行機の折り方を紹介しています。

世界記録を出した紙飛行機は、たった8つの折り目で作れるものの、ミリ単位の調整など、やはり技術が必要です。ちょっと手強い、という方には、簡単に折れてよく飛ぶものも紹介されているので、そちらもご覧ください。子どもの頃のわくわくした気持ちを思い出すことでしょう。

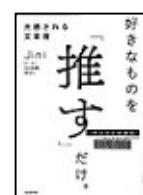
司書の
おすすめ

「好きなものを「推す」だけ。共感される文章術」 Jini/著 KADOKAWA 816ジ

『〇〇推し』-最近よく耳にする言葉ですが、大まかに言えば、自分が好きな何かを「好き」と発信することです。共感する誰かとは連帯感が生まれ、人間関係を円滑にする強みにもなります。

共感される文章を書くためのコツが、たくさんの事例となって載っています。簡潔で分かりやすい文章は人を動かす力になります。また、「推し」について書いているうちに、なぜそれに惹かれるのか、本当の自分に気づくことができるかもしれません。

ゲームジャーナリストでトップブロガーの著者が「推す」技術を教えてくれます。



「20歳まで猫が元気に長生きできる住まい」 エクスナレッジ 527.1ニ

家族の一員である猫ちゃんにできるだけ長生きしてほしいのは、どの飼い主さんにとっても共通の願いですね。では具体的にどのようにするとよいのでしょうか。

その答えは「環境エンリッチメント」という言葉で表されます。動物の体や心の健康に配慮して、適度な刺激のある生活を送るようにするという工夫です。人と猫の動線を分けたり、複雑なキャットウォークを設置したりと、様々な実例が写真や図面と共に紹介されています。

「南極で心臓の音は聞こえるか 生還の保証なし、南極観測隊」

山田恭平/著 光文社 402.9ヤ

「南極大陸では自分の心臓の音が聞こえる」という言葉に強く惹かれた高校生の著者は、進路選択における指針を「南極に行くこと」に定め、ついには第59次南極地域観測隊の隊員となります。本書は、著者が観測隊員として過ごしたおよそ1年4か月間の南極生活の記録です。非日常が日常となる過酷な状況に適応し、南極暮らしを満喫する著者の筆致は、その極限状況を楽しそうとさえ思わせてくれます。

